
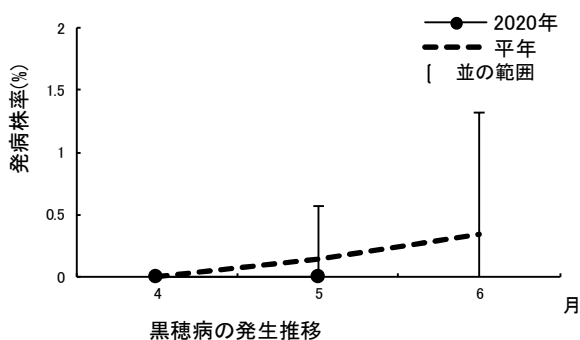


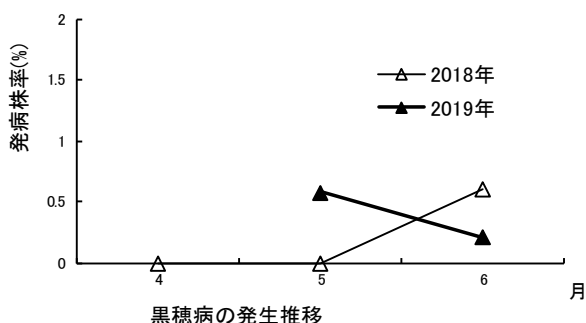
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① 黒穂病		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



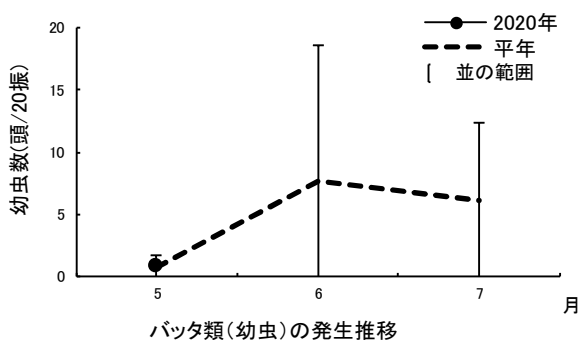
防除のポイント

- ・ 発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・ 胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・ 発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

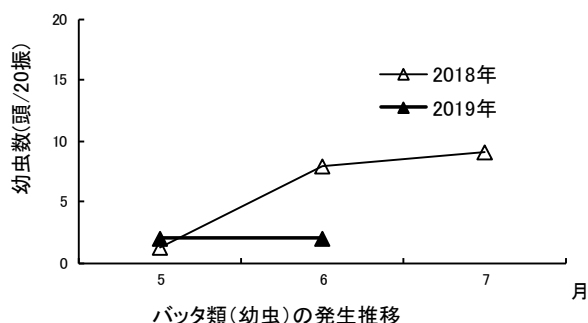
作物	さとうきび		地域	沖縄本島
病害虫名	② バッタ類			
予報	6 月の発生量 (平年比)	並		
	5 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

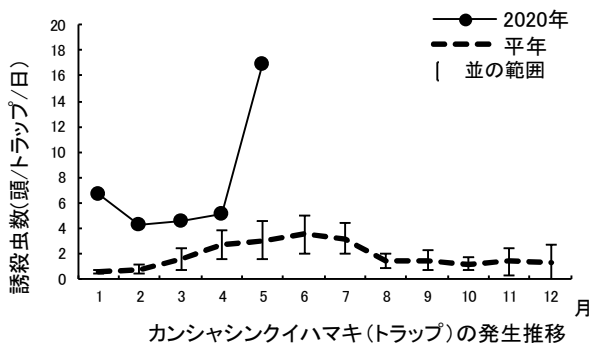
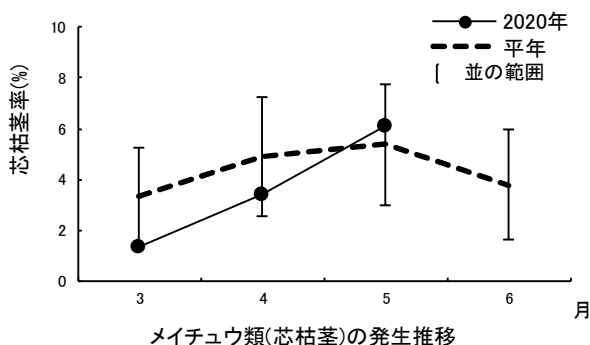


防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



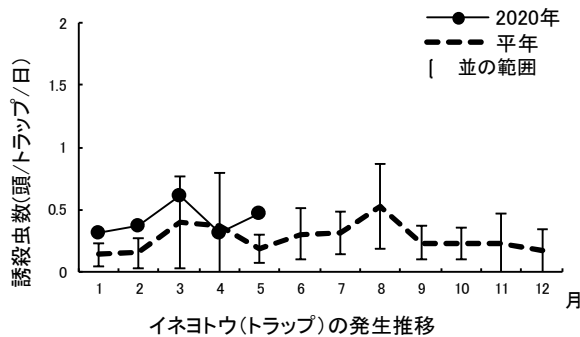
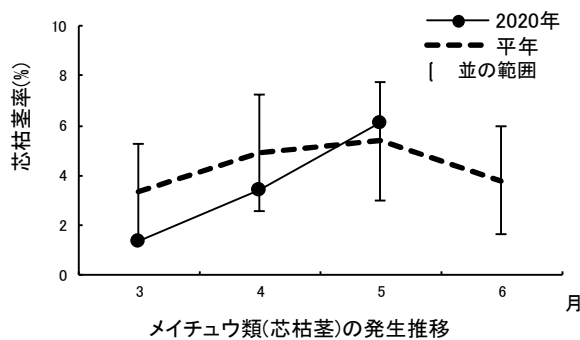
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の91%(52/57頭)がカンシャシンクイハマキであった。
- ・病害虫防除員の報告(メイチュウ類)：多発生(久米島町)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の8.8%(5/57頭)がイネヨトウであった。
- ・病害虫防除員の報告(メイチュウ類)：多発生(久米島町)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。